

キヌサヤエンドウのハナアザミウマ防除対策

農業試験場 主査研究員 岡本 崇

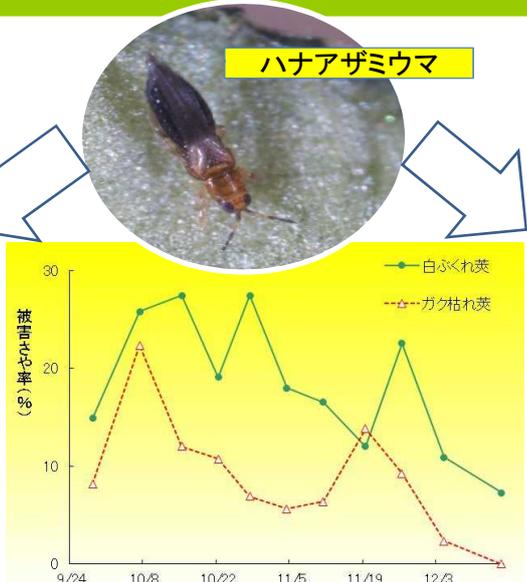
近年、日高地域のキヌサヤエンドウ(57ha)において、莢のガク枯れや白ぶくれ症が多発している。その原因は、主にハナアザミウマによる加害であることが判明した。しかし、本種に対しては、登録薬剤が少なく薬剤防除のみでは防除効果が得られないことが多い。そこで、2種類の物理的防除法について現地試験を実施し防除効果を確認した。

ガク枯れ
(出荷不可、階級落ち)



食害

被害莢率: 10月平均14%
最大52%
(印南町、2015)



白ぶくれ症
(品質低下)



産卵痕

被害莢率: 10月平均25%
最大92%
(印南町、2015)

図 ガク枯れ莢と白ぶくれ莢の発生推移(印南町、2015)

光反射マルチの利用(忌避作用)

研究内容
物理的防除法の現地試験

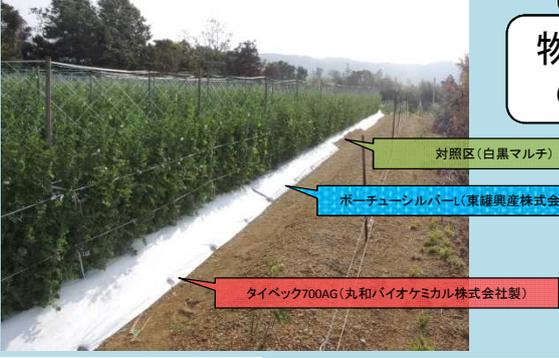
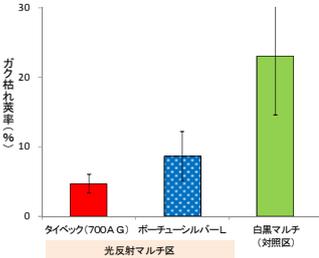
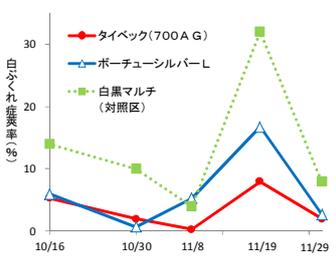




図 ガク枯れ防止効果
※マルチ設置日2018.9.16
調査日 2018.10.16

図 白ぶくれ症防止効果
※マルチ設置日2018.9.16
調査日 2018.10.16

防風ネット挟み込み被覆栽培
設置方法は、「ウラナミシジミ被害防止のためのキヌサヤエンドウ挟み込み被覆栽培マニュアル」を参照

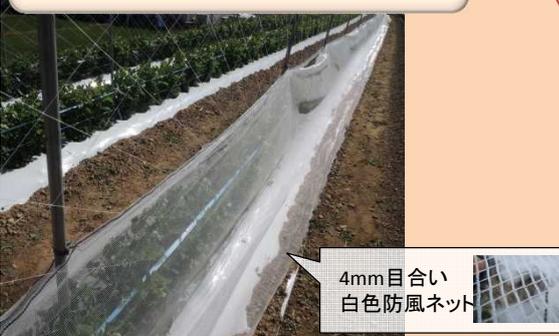
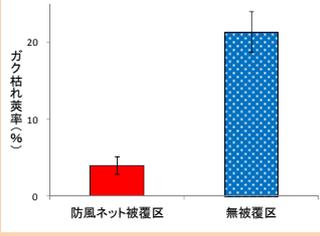
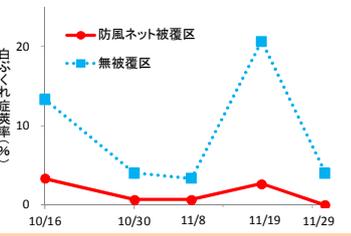




図 ガク枯れ防止効果
※被覆開始日2018.10.4
調査日 2018.10.16

図 白ぶくれ症防止効果
※被覆開始日2018.10.4
調査日 2018.10.16

光反射マルチ、防風ネット被覆栽培とも、サヤエンドウのガク枯れおよび白ぶくれ症の防止効果が確認された。

JA、振興局と協力し、成果を農家に提供して普及を目指す